欲望のままに

ふにぅ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
欲望のままに

【Ｎコード】
Ｎ３９５１Ｚ

【作者名】
ふにぅ

【あらすじ】
ここはごく一般的なＶＲ－ＭＭＯの世界
私利私欲を求めて、現実からかけ離れた世界へ、新たな料理、暴力を求めた兄妹が旅立っていった

1　oβ当日

ここはごく一般的なＶＲ－ＭＭＯの世界
ＶＲ－ＭＭＯとは、筐体に入ってネットゲームをすることだ
ＰＣとの違いはリアル差が一番目立つところだろう

－－－－oβ当日

「兄者(あにじゃ)よ、私もやるぞ」
妹のリンはそう行って、財布の中から銀行カードを抜き取り、その日のウチニＶＲ筐体を一台買ってきたのだ
もちろん暗証番号は教えていないはずなのだが・・・
「兄者の頭では、生年月日を覚えるのが精一杯だろ」
まさにそのとおりである、言い返せないのが悔しい・・・

いい忘れたが、俺の名前はカズキだ
まぁどうでもいいんだが・・・・・

「んで、もうすぐ始まるが、職業はなんにするんだ?」
このゲームは職業という枠がない、基本的になんでもできるのである
なぜ職業を聞いたかというと、装備で大体の職業っぽいことができるのだ
剣と盾なら前衛で壁ができる、杖を装備すれば魔法が使える、弓を持てば後衛支援ができる、回復職もやろうと思えば杖さえ持てば誰でもできるのだ

職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ
しかもこの武器Ｌｖ上限が無いらしい・・・
つまりイロイロ試すより１つの武器を鍛えたほうが、他より強く慣れるのだ

ちなみになぜそうなるかというと、Ｌｖというものがないからだ
Ｌｖという概念がないため、ステータスは武器・防具・称号・スキルＬｖで強さ決まる

例えば、【弓３０　片手剣３０】のプレイヤーが居るとしよう
同じ時間剣だけを上げた場合【剣５０】になるのだ
近づけさえすれば、【片手剣３０】では【片手剣５０】にはかなわない
ＰＳ（プレイヤースキル）にも左右されるが、基本的には勝てない、鍔迫り合いになったら簡単に押し切られるだろう
しかし、【弓３０】を生かせれば、正気はあるのがこのゲームの面白いところだ

「戦士がいいな、暴れたいし・・・、兄者は？」
この一族は本能に忠実だ
「料理人だな、魔物が食いたい」
このＶＲ－ＭＭＯでは味覚まで再現されている・・・・らしい（公式参照）
このことが分かったその日に俺はＶＲ筐体を買いに行き、ｏβが始まる前から予習を欠かさなかった
「流石兄者、料理の腕にきたいします」

リンは言い終わるとＶＲ筐体入っていった
「さて、楽しみだな・・・」

すでにヨダレで服が濡れているのだが、着替えているじかんはない

【始まりの街、アルトーア】
エルリア大陸の真ん中にある国で、プレイヤーの初期地点だ
ここから冒険が始まるのだが・・・・
「（なんという喧騒、さすが始まりの街だな）」

「ＰＴ募集ちゅう～、後衛火力のかた@2～」
「ＰＴあいてませんか～、壁しぼうで～す」
「ここで叫ぶなよ、ログが貯まるだろｋｓ」
「ツンギレキター、（ﾟ∀ﾟ）ノ」
「ＰＴはいりま～す」
「ぱんてぃハァハァ」
「寝るコマンドここで使うんじゃねー！＃」

すごい速度で左下にある会話ログが流れていく
実際に会話したことがそのままログに残るのである
これにより、ＧＭコールで犯罪を未然に防ぐとか何とか

「（さて、出発するか）」
クエストを受けるでもなく、妹のリンとＰＴを組むでもなく、まっすぐ町の外に出た
ウチの家系は、本能に忠実・・・もといわがままなのである
自分の意見は押し通してこそ、人生　とか親父も言っていた
つまるところ家族全員ソロリストだ、よく家庭崩壊しないものだと思うぞ
「さて、まずはドイツから料理してくれようか・・・・」

装備は片手剣、予習（公式参照）によると包丁を使う前提のスキル

が、【片手剣１０】だ
つまり、【片手剣１０】似到達しないと料理が作れないのである
包丁を使わない料理ならできるが、あまりにもレシピが偏る
「まずは【片手剣１０】だな、」
職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ

手近にいたウサギのような敵を切り裂いた
倒したあと、モンスターは霧のようになって消えていった
アイテムは自動的にイベントリに収められるようになっている

「肉だ・・・ジュルリ」
イベントリに肉があった
１０匹くらい倒したので、多少は素材も集まっている

柔らかいの毛ｘ５
うさぎの肉ｘ１
うさぎのしっぽ（アバター）

イベントリから1つ肉を出してみた
頭くらいの骨付き肉が空中から地面に・・・
「っと、あぶねぇ」
落ちる前に回収した

もちろん食べた、生で
結構ジューシーで意外といける
「焼いたほうが美味しそうだな」

１０数匹倒したときに機械音がなった

《ポーン、【バシップスキル：片手剣】を取得しました》

《【スキル：スラッシュ】を覚えました》

バシップスキルとは、習得していれば、常時効果が発動するスキルである
基本的にはバシップを上げればスキルを覚えるのだが、バシップを複数上げることで覚えるスキルもあるらしい

《バシップスキルは5個までしか付けれません》

《取消の場合は、始まりの街スキルセンターまでお越しください》

あぁ、5個までだったな・・・
つまり、【片手剣】で1枠埋まってしまうのは確実
あとは料理で必要なスキルを探さないとな・・・

名前　カズキ
武器　スチールソード（片手剣：耐久度９９／１００）
頭　なし
鎧　旅人の服（初期装備）
腕　なし
腰　旅人のズボン（初期装備）
足　旅人の靴（初期装備）
アバター　なし
バシップスキル　【片手剣Ｌｖ１】

アバターには、かなり色々付けれるらしいのだが・・・・
うさぎのしっぽは流石ににないわー
いや、女の子がつけるならむしろ”あり”なのだが、俺がつけるのは流石に、な

1　oβ当日（後書き）

ご意見、感想くれると嬉しいです

2　バシップ自動販売機（無料）

ウサギ狩りも人が多くなってきたので、街に帰ることにした

【成果】
片手剣Ｌｖ１→１０
柔らかい毛ｘ１５
うさぎの肉ｘ３
獣の皮ｘ２
スチールｘ２
うさぎのしっぽ（アバター）ｘ１

ようやく包丁を持って、料理が作れると意気込んだのはいいものの・・・

「そういやぁ、包丁ってどこで入手するんだ・・・？」
料理職のｗｉｋｉには作り方しか書いてなかったしなぁ
町を彷徨（さまよ）っていると、大通りは露店街になっていた
かなりいっぱい露店が並んでいるのだが、買う人も大量だ
聞いてみるしか無いな・・・、武器売ってる人はどこかねぇ

「すいませーん」
「はいはい～、初心者用武器いろいろ揃ってるよ～」
グラマーなお姉さんだなー
「包丁って、無いですかね？」
「包丁か～、まだ作ったこと無いんだよね～（ノ∀､）

なんなら作ろうか（＊´ω`）？」
このＶＲ－ＭＭＯは武器ドロップが無い、基本的に武器防具は鍛冶屋（鍛冶バシップスキルを持っている人）が作るしかないそうだ
初期武器だけは店売りがあるのだが、初期武器を買うくらいなら、おなじくらいの経費で作れる武器を鍛冶屋露店で買ったほうが性能がいいらしい
作るための鉱石はモンスターか、鉱脈で採取できる
雑魚は低確率でボスは高確率で鉱石を落とす
鉱脈は１００％何かしら１つ出るようだが、鍛冶屋にしか掘れない

「お願いできますか？」
包丁がないのでは仕方ないしな
「お代が１ｋくらいかかるけどええか～？」
初めに１０００ｂ配布されているので問題ない
「はいよー、３０分くらいしたらまた来てやー」

お金の単位は
１Ｇ（ギガ）＝１０００Ｍ（メガ）＝１０００，０００ｋ（キロ）＝１０００，０００，０００ｂ（バイト）
たまに日本人は、～万円計算する人がいるのだが、かなりめんどくさいと思うんだ
今ではこの単位が基本になっているのだが、初心者はたまに～万円とか使うと計算が狂ったりする

お姉さんの話によりと、初期バシップスキルを売っているＮＰＣがいるらしいので、包丁が出来上がるまでに行って見ることにした

「どう見ても自動販売機だよなー・・・」

1台の自販機に人がかなり群がっている
バシップスキル5個しか装備できないので、順番が回ってくるのはそんなに遅くはなかった

「【片手剣Ｌｖ1】も売ってたんだな・・・」
初期装備で何匹か狩るとそのスキルを覚えることができるが、買ってもいいらしい
このＮＰＣは【片手剣】【両手剣】【盾】【弓】【ステップ】【片手剣１０→包丁１】【鍛冶】【錬金】・・・・ｅｔｓ

などが売っていた、無料らしい・・・
買ってから狩り行けばよかったｏｒｚ

とりあえず何も付けないよりは5個バシップを埋めておくことにしよう
【包丁Ｌｖ1】【調理Ｌｖ1】【ダッシュＬｖ1】【盾Ｌｖ1】【ステップＬｖ1】

とりあえず適当に埋めた
不要なものが出るかもしれないが、無料だしな！

2　バシップ自動販売機（無料）（後書き）

長い文苦手なので、短めをポツポツ更新していきます

3　装備

「包丁できてるよ～ヽ（。∀。）ノ」
俺はできた?の包丁を手に取った
「おぉ～、これがココの世界の包丁か～」
【万能スチール包丁＋１・息吹　１００／１００】
「この息吹ってのは作者の?」
「そやで～、ポキっと折れたら錬金術師に持ってけば買い取ってくれるで～」
制作物は＋１になるそうだ、ＮＰＣ売りとおなじ価格で作れるので、断然お得だな・・・

価格の１kを渡した
ついでに素材を買い取ってくれる人を聞いたところ
「お、素材あるん?　買い取ろか（＊´ω､）?」
「ありがたいです」
取引を要請して、取引イベントリを出すことで、盗難を防げるようだ
手渡しでもいいのだが、数が多いと入れなおすのが面倒とのこと

柔らかい毛ｘ１５
獣の皮ｘ２
スチールｘ２
うさぎのしっぽ（アバター）ｘ１

「しっぽキタ――――（。∀。）――――!!!!!」
ビクッ
普通の会話なのにチャットログには絵文字が表示される・・・設定

で登録した会話にはログにそう表示されるようだ
ただし絵文字しか登録できないそうだが・・・謎機能である

「高いんですか？」
「そやね～ｃβの体感やと、１万匹も狩ればでるんちゃう（ﾟДﾟ）？」
「結構でないんですね～・・・」
「でも初めはみんなかるから、意外と出回ってるんよ～
そのうち高くなるから取っといたほうがエエよ？」
「じゃあしっぽ以外の残りお願いします」
「まいどあり（＊´ω`）」

柔らかい毛１００ｘ１５
獣の皮５００ｘ２
スチール３００ｘ２

「合計３．１ｋやね～、ほいどうぞヽ（ﾟ∀ﾟ）ノ」
「おぉ～、意外と高い」
「素材系も出にくいの多いし、今が１番売れるからやね～
お、そや、これも買わんか？」

取り出したのは、【スチールのフライパン＋１：息吹　１００／１００】
「買います！」
「１ｋになりま～す（＊´ω`）」
目ざとい、息吹さんめっちゃめざとい
「ふへへへへ～、まいど～ヽ（ﾟ∀ﾟ）ノ」

フライパンにはどうやら【鈍器】バシップが必要なようで、自動販売機にもう一回行くことになりそうだ・・・

名前　カズキ
武器１【万能スチール包丁＋１・息吹　１００／１００】
武器２【スチールのフライパン＋１：息吹　１００／１００】
頭　なし
鎧　旅人の服（初期装備）
腕　なし
腰　旅人のズボン（初期装備）
足　旅人の靴（初期装備）
アバター　なし
バシップスキル【包丁Ｌｖ１】【調理Ｌｖ１】【鈍器Ｌｖ１】【ダッシュＬｖ１】【ステップＬｖ１】

しかし、敵を切ったり殴ったリした武器で調理するのかなかなかに不衛生だと思うんだが、ゲームだしな・・・

「壊れたらお願いできますか？」
「ええで～、友登録もしとくか～（＊´ω`）？」
「よろこんで（＊´ω`）」

息吹さんのアドレスをゲットした

4　露店調理

【クッキングファイア】
地面から火柱が上がり、加熱調理できる魔法だ
魔法職の【ファイアーボール】との違いは地面指定なところだろうか

今まさにいま目の前で燃え上がっているわけで

完結に言うと、肉を焼いていた
【鈍器】を自販で買ったあと、香辛料も仕入れたので実際に焼いて見ることにしたのだ

「ちょちょちょ、ここは厨房ちゃうで～ヽ（。∀。）ノ」
目の前で火柱が上がる息吹さんはびっくりしていたが、作れる時に作らないのは料理人の恥（謎）

【うさぎの丸焼き：体力１％　力＋１％　空腹度＋５０％】ｘ２

空腹度とは、なくなると餓死するのだおよそ1日で１００％減り、戦闘をしていると倍速で減る

「あ、食べますか？」
「（＊´ω`）ジュルリ」
２人で昼飯にした

「うんめぇ（。q。）」
香辛料も使ったので、意外と美味しかった

「あの、すみません、料理売ってるんですか？」

道端で肉を食べていると、なぜか周りから注目されていた

「材料があれば作れますが・・・なぜに？」

理由を聞いたところ、昼過ぎで腹は減るのだが、料理人は狩りをしていて売っている店が殆ど無く、ＮＰＣは料理を売っていない、水は売ってるのだが・・・

料理を作れる人の店はムダに高いらしい

そりゃ空腹度を回復させれるのは【調理】スキルを持っている人だけなわけで、戦闘職や、鍛冶屋が使わないスキルを５スロットしかないバシップスキルに入れるはずもない

よって、高くても買うしかない状態がまさに今だという話だ

ふむ・・・これはいけるか？

「材料と１００ｂでどうですか？」

「え、それだけでいいんですか？」

飯１つで２ｋはするらしい、すげーぼったくってるな、どこぞの料理人

「スキル上げついでですんで、良いですよ」

そう、スキル上げが目的なのだ、儲かることなど二の次だ

１時間後

俺は、今、戦争の中にある・・・

そう、料理戦争だ・・・・

つまるところ、焼きまくっているのだ、肉を

調理方法は調べてあったので、ある程度の食材ならステータスｕｐ効果をつけることが可能だ
うまく調理できると、ステータスがｕｐする、２時間程度だが・・・

そして、俺は現役の料理人
失敗する要素はない
むしろＭＰが枯渇し欠けて【ＭＰ回復ＰＯＴ】を材料費に追加したくらいだ

そして、安いのが評判になり、昼からずーっと作り続けていたのだ
７時間は余裕で作り続けられたのも、リアルでの料理人としてのＰ（プレイヤー）Ｓ（スキル）のおかげかな

【包丁Ｌｖ１２】ステーキの注文で
【調理Ｌｖ２７】調理全般
【鈍器Ｌｖ２０】フライパンで焼いたり、肉を空中で叩いたりしていた（ひっくり返す）
【ダッシュＬｖ１】
【ステップＬｖ１】

すげー上がった、隣の息吹さんは　おろ（（ ゜∀ ゜））おろ　していた
隣で作っていたので武器もよく売れたそうだ、よかった迷惑にならなくて

便利なスキルも増えた
【サイコロカット】肉を消滅させずにステーキ肉に出来ます

【鍋召喚】鍋(なべ)を召喚します、鍋はイベントリに入っている物が召喚されます。鍋はイベントリに1つしか入れられません
【フライ返し】フライパンを叩きつけ、ひっくり返します

スキルは対象物を意思にして、スキル名か意識を集中させることで発動できる
スキルを発動すると強制的にモーションを取るので、肉が空中を数m飛んだ時は驚いた
威力を調節していつも通りに調理すれば問題はないというか”スキル名を言っていないのに”スキルが発動することがかなりあった

息吹さんによると「無意識操作」らしい
似た動作をすると無意識に発動してしまうそうだ
マスターすると、スキル名を言わすに発動できるのが利点らしい
対人戦の必須スキルとかなんとか

台所はまだ無いので、フライパンの上で調理していたわけなんだが・・・

フライパンが壊れた

まな板にも使っていたので、結構消耗する
10個作れば耐久度が1減る、しかしこれは新品だった
つまりそれくらい調理したのだ

主にうさぎの丸焼きが多かったので、【サイコロカット】を覚えるまでステーキを作れず【包丁】のLvもあげられなかった

【サイコロカット】を使わずに生肉を切ろうとすると消滅するのだ

何個か食材無駄にして、お客様と食材に土下座したｏｒｚ
お陰で【包丁Ｌｖ２】で【サイコロカット】覚えるまで、泣きそうだった

（主に罪悪感ではなく、調理方法が少なくなることで）

所持金２３，６００ｂ
【包丁Ｌｖ１２】【調理Ｌｖ２７】【鈍器Ｌｖ２０】【ダッシュＬｖ１】【ステップＬｖ１】

4　露店調理（後書き）

そろそろ妹のリンをださないと忘れそうな気がしてきました

5　朝の露店街

2日目の朝7：00

「おはよ～、（～∀～）ノ」

息吹さんの隣で昨日と同じように露店を再開した

昨日隣で料理露店して仲良くなった鍛冶屋の人だ

朝は弱いのか、すぐには制作せずに商品を並べている

この時間帯は人は来ないと思っていたが、廃人の帰宅組が結構来ていた

徹夜で狩るとか、若い頃はできたが、今は夜は寝て朝起きる習慣が

現役料理人として根付いてしまっていた

器用に指でフライパンを3つ挟んで同時に焼けるようになっていた

息吹さんは（ﾟДﾟ）な顔をしていたが、今は鉱石買取と武器注文で急がしそうだ

朝方帰還組

←

町に帰って武器注文・修理

←

飯

←

寝る

この時間帯からネトゲーでご飯を作っている所なんてココくらいだろう

なぜかというと、生産ＮＰＣの比率がかなり少ないのだ
そりゃ、狩りしたほうが楽しいって人のほうが多いだろう
しかも単純作業を延々と続けれるかが求められる生産職だ
仕事なら耐えられても、ゲームで仕事のようなことをするのか・・・
といわれれば少ないのもわかる気がする

それゆえ人気がない、ただし需要はある
飯を食わねば餓死するし、武器は初期装備しかＮＰＣは売ってない
修理も製造もプレイヤーしかできないのだ当然といえば当然か

「すいません、武器注文お願いします」
「あいあい～、素材は持ち込みですか～（＊´ω､）？」
「これ」
「うひょ～、鋼鉄やん（・Д・；）」
「大剣・・・ほしい」
隣を見ると、エルフアバターの三つ編みのおさげ（金髪）の子が武器を見ながらうっとりしていた
「やったるで～ヽ（ ゜∀ ゜）ノひゃっは～」

鉱石にも等級がありスチール　鉄　鋼鉄　ダマスカス　ミスリル　神鉄など、ほかにもいろいろあり、鉄製を作るには、スチール製を何本も作る必要がある
しかも、敵がドロップするのは鉄までなのだ
あとは、洞窟などで掘るしか無い・・・惚れるのは【鍛冶】バシップ持ちしかできないのだが
ただし例外があり、ボスはレア鉱石を１００％ドロップする

鉄商品は、まだ2日目なので少ない
息吹さんは持ち込み依頼で仕事をしていたので、その分Ｌｖが上がっているそうだ

「ε＝ε＝ε＝ε＝ヾ＊´ω､）ノあびゃー」
息吹さんは店をたたんで工房へ走っていった

6　リンの1日（妹のリン視点）

気がつけば1日中狩っていた
「もう、朝やん」
すっかり兄者（あにじゃ）のことも忘れ、狩りに勤（いそ）しんでいたからだ

しばらく進んでいると、ゴブリンの集落が見えた

大剣を握る手が力を増し、口元がほころぶ

『ダッシュ』

三つ編みにしたおさげが風になびく
一気に加速して、土煙を巻き上げながらゴブリンの集落へ突貫した

「最後のデカイの、なかなか強かった／／／」
町の戻ってきたリンは戦闘の余韻にひたっていた

【戦果】
獣の皮ｘ６５
狼の肉ｘ５
スチールｘ５
鋼鉄ｘ２
エルフ耳（アバター）：索敵（小）が可能
（【捜索】バシップで覚えるスキルより索敵範囲が半分）

いい店を見つけた
朝から開いているみせでも、人きは目を引く品揃えだ
まだ2日目なのに、鉄製の武器を売っている

鍛冶屋の場合【鍛冶】【鈍器】【採掘】
服屋の場合【裁縫】【鈍器】【採掘】（鎧を作るため）
が必須となり、採掘のために闘用スキルを入れるのが掲示板での共
通見解になっていた

【採掘】は【鍛冶】ｏｒ【裁縫】と【鈍器】バシップがスキルに入
っていないと覚えれないし、機能しない
【採掘】のない生産キャラにＰＴ募集など無い
なぜなら、鉱脈から鉱石を１００％１つ採取できるからだ
ＰＴ募集でも【採掘】募集が結構あるほど鉱石は高い
特に鋼鉄以上はムダに高い

【鈍器】ばかり上がるので火力には申し分ないが
補助バシップを入れないと、戦闘ですぐ死んでしまうのが難点なのだ

でもこの店は、鎧も売っていたのだ
つまり最低でも、【鍛冶】【鈍器】【裁縫】【採掘】

ココまでしてしまうと、
１つのバシップしか使えなくなる
つまりＰＴが組めないため、鉱石を掘らずに町で作り続けるような
ことをしない限り、スキルＬｖが上がらない

堀に行っても戦闘ですぐ死ぬため、足手まといなのだ

「すいません、武器注文お願いします」
この店なら・・・
「あいあい～、素材は持ち込みですか～（＊´ω`）？」
「これ」
「うひょ～、鋼鉄やん（・Д・；）」
鋼鉄は鉄武器防具を精錬してスキルを上げないと、精錬しても形が変わらない
むしろ叩いたほうがダメージを受ける
「大剣・・・ほしい」
「やったるで～ヽ（ ゜∀ ゜）ノひゃっは～」

隣からは良い匂いがした

朝飯を食べてなかったので、空腹度が一桁だ
（狩りに出た時料理屋なんてなかったもんなぁ・・・）

「・・・兄者」
兄がいた、すげーこっち見てる
料理していることは分かっていたのだが、こんな所であうとは思ってなかった
てっきり野生化して生肉でも食ってるものかと・・・

味がリアルらしいこのゲームは現役料理人の兄からすれば
”生肉を食べても、毒になる時はあるが味見ができるし死なない”
と言っていた、生肉食うなし、生肉を・・・

くきゅ～・・・・

臭いのせいで、すごくお腹が空いた
空腹度が５％を切っている

そういえばログアウトしてないけど・・・まぁ死にはしないよね・・・？

名前　リン
武器１　【スチールの大剣・音無　３／１００】
武器２　【スチールのガントレット・音無１２／１００】
頭　なし
鎧　【スチールアーマー・てるてる】
腕　なし
腰　旅人のズボン（初期装備）
足　旅人の靴（ＮＰＣ売り期装備）
アバター：エルフ耳（索敵小）
バシップスキル【両手剣Ｌｖ３０】【重装備Ｌｖ２８】【パリィＬｖ１５】【ダッシュＬｖ２１】【ジャンプＬｖ５】

6　リンの1日（妹のリン視点）（後書き）

重鎧でジャンプすると全然飛べません・・・なのでＬｖが低いです
露店で鎧と武器を買うまではジャンプしてたので多少上がってます

まだ2日目だからＬｖ修正して下げようかな・・・

7　ステップとダッシュ

「兄者、飯、兄者のツケで」
1日ぶりにあった妹のリンは、どうやら食料も持たず狩り続けていたらしい
俺のつけってことはどういうことなのだ・・・
妹に目の前で餓死されてもいたたまれないので、予備の材料で調理することにした

「今から寝るのでモグモグ、昼になったらムシャムシャ、起こしてくださいパクパク
あ、友録申請しますねゲフー」
俺の露店は立ち食いが基本なのだが、チャーハンに顔を突っ込みながら喋るのはどうかとおもうぞ妹よ・・・

「狩りに行きましょう」
ということで、出来立ての両手剣を試しに行きたいらしい

「少しまて、この列の注文が終わったらいくわ」
「いや～、がんばっちゃった（ノ∀､）」
「あ、ガントレットも・・・ありがとうです
料金は、兄者のツケで」

ツケって・・・・

「兄者、私はお金が尽きたのです
さっさと財布になってくれないと息吹嬢が困ってます」
「兄弟愛やわ～（＊´ω`）」

・・・

【鋼鉄の両手剣＋１・息吹　１００／１００】
【鋼鉄のガントレット＋１・息吹　１００／１００】

素材系を全部息吹さんに売払い、それでも足りない分は出してやったよ・・・うん

「実は、ゴブリンの集落の奥に洞窟があったのです」
「ｆｍ、んじゃそこに行くか」
洞窟の最深部には、ボスが居て結構なレアを落としてくれる

「洞窟か～、ええねぇ～（＊´ω`）」
「鉱脈もありそうだったので、一緒に行きませんか？」
「ん～・・・イグ～ヽ（ 。∀ 。）ノ」

そういうことになった、俺は確定なのね・・・

行く途中【ステップ】を【採取】に付け替えた
何度か使ってみたが、数ｍ横に飛んでしまったりするので、料理人としては使いづらかった
代わりに【ダッシュ】を短距離移動スキルとして使うようにしている

スキルは基本てきに”決められた動作を強制的に行う”事ができるものだ
なので、スキルを使わなくてもそれを表現することが出来ればＭＰ軽減にもなる

だが、【ダッシュ】を後ろ向きに発動すると、いきなり９０度回転した状態に強制されるのだ
これを応用して、ちょこっと【ダッシュ】で向きだけを瞬時に変えることを思いついたのだが・・・

「スゲー酔うな、この動き」
ちなみに今は、洞窟の中で戦闘中だ

「兄者、今のはどうやっているのですか？」
コブリンの攻撃を【ステップ】ではなく、いきなり横に体がずれするに戦っているのだ

「左ダッシュ→右ダッシュって動けば、左にズレることができるぞ」
ゴブリンの攻撃をバグ移動？しながら避ける俺がいた
ガガッて感じなのだ、ガガッっと移動する感じなのだ

「なるほど・・・【重鎧】で【ステップ】はほとんど動けないので【ダッシュ】はよく使っていたのですが・・・試す価値がありそうですね
でも、さっきからスキル宣言してないですよね？」
大剣でなぎ払い、突きさし、蹴散らしながら、ほとんど１発で仕留

めている

「それはな、スキルを宣言したとゲームが認識すればいいんだ、意思操作って言ったっけ？　結構便利だぞ」

俺は避けながら包丁で刺す

首、心臓などの急所に刺せば、即死判定が出るのだ

見た目はブレるように横滑りしながら包丁で急所を刺していくシュールな光景

「カンッ、カンッ、ポロッ　鉱石うめぇ～（＊´ω`）」

先頭をリン、真ん中に息吹さん、後ろを俺が守る感じで鉱脈にピッケルをアヒャ顔で乱打している息吹さんを護衛しながらすすんでいる

鉱脈は輝いていてすぐわかる、掘ると輝きがなくなりどこかへ鉱脈が転移するようだ

戦法は結構単純で、まずリンに突っ込んでもらう

洞窟はあまり広くないので、ゴブリンをよこに3匹も並べたら通路が埋まる

それを利用して、リンがガードしたら伊吹さんに攻撃してもらう

息吹さんはこう見えて、結構な攻撃力なので意外と戦力なるのだ

後ろは基本的に数が少ないので、3人ＰＴくらいのモンスターが多いこの洞窟だと楽に進めた

カズキ

【包丁Ｌｖ２５】【調理Ｌｖ３１】【鈍器Ｌｖ２４】【ダッシュＬｖ１２】【採取Ｌｖ３】

リン

【両手剣Ｌｖ３１】【重装備Ｌｖ２９】【パリィＬｖ１７】【ダッシュＬｖ２２】【ジャンプＬｖ５】

息吹

【鈍器Ｌｖ３２】【鍛冶Ｌｖ３１】【重装備Ｌｖ５】【裁縫Ｌｖ２４】【採掘Ｌｖ２】

7　ステップとダッシュ（後書き）

洞窟に来る途中で採取しちゃってます、抜け目無いですね
息吹さんは重装備で頑丈ですが、足が遅いです
攻撃に参加するのはリンが鍔迫り合いや、ガードしてる時くらいになりそうです
カズキと攻撃するといきなり横スレしてくるので危ないようですｗ

8　ドナドナ

私は奴隷、現在馬車でドナドナ中のピッチピチの１４歳女の子
その日私は信じられないものに出会った

ドナドナ中の馬車は、運悪くモンスターに襲われた
糞尿の立ち篭める匂いで奴隷馬車は狙われやすい
それは仕方の無いことだった

「護衛兵！何のために雇ったと思ってやがる！！
クソッ俺だけは守れ！」

奴隷商人たちの声が聞こえてくる
「おい、でろ」

ひとりの奴隷が馬車から捨て落とされた
落とされた男は、狼のモンスター（ウルフ）の群れに襲われて食われた

車体が大きく傾いた

死にかけていたものを優先的に落としながら、それでも馬車は逃げ切れなかったのだ

馬車の車輪が壊され、奴隷の檻が放り出されてしまった

口を切ったのか血の味がする・・・
あぁ、死ぬんだなーっと思いながら、奴隷の首輪をなでた
奴隷の首輪をつけられた者は、主人の命令無しでは
喋ることすらできない、例え魔法が使えても命令がないと意味はないのだ

先ほど主人であった奴隷商人は、護衛と一緒に逃げてしまった

「しぬのかなぁ・・・」

口にしたら、泣けてきた
いつも無表情にしていた顔から、とめどなく溢れてきている

ウルフ達は、次の獲物を見定め、檻を食い破ろうとしている
私はそれをボーっと眺めていた・・・・

そして信じられないものを発見した

「ギャウン！？」

ウルフ達が悲鳴を上げた
少し向こうで奴隷を漁っていたウルフの首から大量の鮮血が、地面を赤くを染め上げた

私はこう見えたのだ

マッパの変態が、ウルフの首を噛みちぎり、即死させた

２匹目のウルフは、変態の素手でマップタツにされた

３匹目は１匹目を食っていた変態に襲いかかったが、素手で頭を鷲掴みにされ、潰された

他のウルフ達はその光景を見て、一斉に逃げていった

・・・助かった、そう思うと一気に目の前が暗くなっていくような感覚に襲われ、私の意識は途切れた

9　ここはどこ?

目が覚めると森の中だった

「ちゃんと宿屋で寝たんだが・・・」

とりあえずステータスを確認するか・・・

「ステータスひらかねぇ・・・」

しかもだ、脱げないはずの下着装備まで外れているのだ

つまりマッパだ

「とりあえず、着るものを確保しないとな・・・」

木々のむこうから悲鳴が聞こえた

男の悲鳴だったので少しがっかりしながらとりあえず向かうことにした

え、だってそうだろ?

女の悲鳴の方が、助けがいがあるってもんだろ!

到着したら、かなりやばそうだったので、戦力を把握するために【試食】スキルを発動させた

【試食】モンスターを試食することで、弱点を味から分析するという謎スキルだ
初見とかだと結構便利なスキルなのだが、相手が美味しくなかった時に吐きそうになるのだが・・・

1匹目の首を食いちぎり弱点を分析する

【ウルフＬｖ５　弱点：魔法　味Ｌｖ３】

不味くはない、調理にも使えそうだ
魔法は・・・かなり弱い調理用のしか使えない、このＬｖなら素手でいけそうだ

2匹目を素手で2枚におろし、3匹目の頭をミンチにしてやった

さすがに狼は危険を察知したのか全部逃げたようだ

「生き残りは・・・・1人か」

それにしても、リアルだ
モンスターも消えないし、かなりグロイことになっている
元料理人じゃなかったら、吐くいててもおかしくないんじゃね？

檻の中で気絶している女の子はとりあえず置いといて、飯の準備を

開始することにした

・・・檻アカネーンダモン

「お、目が覚めたか」
女の子が口をパクパクさせている
耳が尖っているからエルフのなのかな、妹もエルフ耳つけてエルフになりきってたし
結構可愛い小動物な印象を受けた

「とりあえず飯食わねーか？　あー檻こわさねーとな・・・」

ん～・・・、ん？
もしかして、【試食】できるんじゃね？

試しに檻に【試食】を発動させてみた

バキンっと音を立てて食いちぎることに成功した

【さびた鉄の檻　味Ｌｖ－２５】

うん、マズイ、マジでマズイ
吐きそう・・・うぇ・・・・・
鉄の塊を地面に吐き捨てて、もう何箇所か檻の柱の上下を取ってやると、出ることができるようになったのはいいのだが・・・

ウルフの皮を皿がわりに焼いた肉と俺を交互に見ながらヨダレを垂らしているという、なんとも言い難い状況になった、だれかヘルプミー

あ、ちなみに今はマッパじゃないんだぜ？
ウルフから剥ぎ取った毛皮腰に巻いてるしな！

どうやらこの女の子は、言葉がしゃべれないようだ何を言っても首を振るくらいしかしてこない

「くわねーの？」
と聞いたのだが、首輪を指差して、首を振るだけだった

「それのせいで、食えねーのか？」
首を縦に振る
「奴隷の首輪？」
縦に振る

ん～、奴隷制はゲーム上やってなかったんだけどな～・・・
悪質なプレイヤーとかにゲームマスターがつけて規制したりする時に、刺付きのでっかい首輪くらいだったんだが・・・

こっちのはずいぶん可愛いものになっている、レプリカか、とも思ったが、そんなプログラム組んだら通報ものだろう

とりあえず、出来ることは試してみよう
さっきも出来たしな

俺は首輪に【試食】を発動した

【奴隷の首輪　命令：喋るな、抵抗するな　味Ｌｖ－１０】

近寄ったとき、なぜかかなり震えていたが気にしないでおこう

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3951z/

欲望のままに

2011年12月24日04時49分発行